

イデックスオイルレポート ~For a month~

2022年9月1日作成 榊新出光

【月次概況】

●第1週、週末8/5のWTI原油は、先週比9.61ドル安の89.01ドルとなりました。中国国家統計局が発表した製造業購買担当者景況指数(PMI)は、49.0となり景気の拡大・縮小を判断する節目の50を2カ月ぶりに下回りました。また米サプライ管理協会(ISM)が発表した7月の米製造業PMIは、52.8と2年1か月ぶりの低水準となりました。さらに米エネルギー情報局(EIA)が発表した週間在庫統計では、原油在庫が450万バレル増、ガソリン在庫も20万バレル増となりました。一連の低調な経済指標と在庫増を受け、世界的なりセッション(景気後退)懸念が広がる中、エネルギー需要にも警戒感が広がり原油は、売られました。

●第2週、週末8/12のWTI原油は、先週比3.08ドル高の92.09ドルとなりました。IEAは、石油月報で、天然ガス価格の高騰や猛暑の影響で代替発電用としての石油需要が拡大しているとして、2022年度の石油需要見通しを日量38万バレル上方修正しました。また、7月の米卸売物価指数(PPI)が前月比0.5%低下と、20年4月以来初めてマイナスとなりました。インフレがピークを越えた可能性が指摘される中、エネルギー価格の低下に伴う需要拡大期待につながり原油は買われました。

●第3週、週末8/19のWTI原油は、先週比1.32ドル安の90.77ドルとなりました。中国人民銀行(中央銀行)が1年物中期貸出制度(MLF)金利の引き下げに踏み切ったことや、8月の米ニューヨーク州製造業景況指数の悪化などで世界的な景気減速懸念台頭し原油は売られました。しかし週史に発表された米エネルギー情報局(EIA)の12日までの週間在庫統計で原油在庫は710万バレル減少、ガソリン在庫も460万バレル減となり原油は売られました。北海プレント原油との利ザヤ拡大で、輸出が日量500万バレルと過去最大規模に膨らんだことが要因となりました。

●第4週、月末8/26のWTI原油は、先週比2.29ドル高の93.06ドルとなりました。パウエルFRB議長は26日、西部ワイオミング州ジャクソンホールで開催中のシンポジウムで講演し、高インフレ抑制のため金融引き締めをしばらくの間維持する必要がある、物価安定へ決意を持って行動すると表明しました。積極的な利上げ継続に伴い一段の景気悪化となれば、エネルギー需要への影響が広がるとの警戒感が台頭し原油は売られました。売り一巡後は、サウジアラビアのアブドゥルアジズ・エネルギー相が週初に、直近の原油安の対応として石油輸出国機構(OPEC)主導で減産に踏み切る可能性に言及したことに対し、アラブ首長国連邦(UAE)が26日に支持する方針を示し相場は上昇しました。

	8月平均	WTI原油	91.48ドル	前月比	▲7.90	為替 1ドル	136.24円	前月差	▲1.55
--	------	-------	---------	-----	-------	--------	---------	-----	-------

日付	補助金	出光興産	変動幅	ENEOS	変動幅
8/1~8/3	39.0		+2.5		+2.5
8/4~8/10	37.7		+1.5		+1.5
8/11~8/17	31.4		-8.0		-8.0
8/18~8/24	33.8		+0.5		+0.5
8/25~8/31	32.4		-2.0		-2.0

		0.5HPP	ENEOS LS船用燃料油基準価格	
メニュー価格推移 平水湾内T/S持ち届け (サイト60日)	2022年4-6月C重油決定価格	105.210	110.110	(105.210(メニュー)+4.900(プレミアム))
	2022年7-9月C重油仮価格	122.000	128.580	(122.000(メニュー)+6.580(プレミアム))
	2022年7-9月C重油決定価格			(メニュー)+ (プレミアム)
	決定価格4-6月比			

		適合油価格	A重油
内航燃料油価格推移	2022年4-6月C重油決定価格	105.300	114.800
	2022年7-9月C重油仮価格	133.480	
	2022年7-9月C重油決定価格		
	決定価格1-3月比		

CIF価格推移	年/月	9桁速報	原油CIF価格 円/kl	通関CIF ドル/bbl	為替レート 円/ドル	原油CIF価格 前月比
	22/7	9桁速報	99.666	116.48	136.03	3.790
	22/8	最終予測	94.117	110.79	135.05	-5.549
	22/9	展望	85.701	104.81	130.00	-8.416
	22/10	展望	80.383	102.23	125.00	-5.318

【次世代エネルギー】 <トヨタやENEOSなど6社、バイオエタノール燃料の研究組合を設立>

ENEOS、スズキ、SUBARU(スバル)、ダイハツ工業、トヨタ自動車、豊田通商の6社は2022年7月20日、「次世代グリーンCO2燃料技術研究組合」を設立したと発表しました。同組合の理事長は、トヨタ自動車 CN開発部 部長の中田浩一氏が務めます。本部は福島県大熊町にある「福島県大熊町インキュベーションセンター」に置いています。カーボンニュートラル社会の実現に向けて、バイオマスの利用や、生産時の水素、酸素、CO2を最適に循環させて効率的に自動車用バイオエタノール燃料を製造する技術を研究します。具体的には、食料と競合しない原料によるバイオエタノール燃料の製造技術を向上するため、生産設備を実際に設計、設置、運転し、生産面での課題を明らかにします。その解決方法を研究するとともに、生産システムの効率改善を検討します。また、水素製造時に副生成物として発生する高濃度酸素や、バイオエタノール燃料製造時に発生するCO2の活用方法についても検討します。さらに、実際に生産したバイオエタノール燃料を自動車などに使用した際の課題を洗い出し、解決方法を研究します。原料の生産量から製造される燃料の量までを予測できるモデルも検討します。加えて、バイオエタノール燃料の原料確保のため、収穫量の最大化と作物の成分最適化を目指して、最適な栽培方法を提案するシステムを開発します。土壌の成分調査などを通じて、収穫量の予測精度の向上を目指します。

出典 ①<https://monoist.itmedia.co.jp/mn/articles/2207/21/news045.html> ②<https://www.netdenjd.com/articles/-/270695>

【9月価格変動要因】

●需要:米国のドライブシーンは9/4をもって終了。ガソリンの需要を筆頭に製品需要は暫く減少するでしょう。中国でロックダウン再開の懸念が残っていることも需要の下押し材料になる。総じて今後1か月の需要は弱いと予想。これから製油所のメンテナンスシーズンに入ることも原油需要を下押しする。

●供給:サウジが主導してOPECプラスの協調減産再開を検討している。根拠は足元の主要原油先物価格の下落があると言われていたが、減産規模については未だ詳細不明。リビアで内戦の懸念が高まっており日量100万バレル規模の生産が危機に直面している。イランについてはすでに核合意復帰決定と報道もあり増産する可能性もある。

●在庫:原油在庫については、5年平均以下の水準に位置するが、大きく取り崩されているわけでもない。WTIがプレントに対して割安であるが故に欧州向けの在庫輸出が今後定着する可能性に注意したい。米国産原油の国外流出を恐れて、DOE(米国エネルギー省)は各製油会社に輸出を控えるように警告している。とは言えプレント高のためWTIが買われ輸出が増加すると米国内在庫が減るため、今後輸出禁止の可能性もあり。

●リスク資産:8/26に開催されたシンポジウムでパウエルFRB議長は、改めて利上げ継続と来年の利下げを否定した。リスク資産全般にとって当然のことながら金利上昇はネガティブだ。利上げによる景気後退懸念も相まってしばらくは全般に軟調な推移を予想。

【9月価格変動要因】 (単位:US/bbl)

	Brent	WTI
High	110	103
Average	103	88
Low	90	77

日付	国	9月経済指標カレンダー	日付	国	9月経済指標カレンダー
1	米	8月ISM製造業景況指数	15	米	8月小売売上高
2	米	8月失業率	16	欧	8月消費者物価指数(HICP、改定値)
2	米	8月非農業部門雇用者数変化	21	米	米連邦公開市場委員会(FOMC)、終了後政策金利発表
2	米	8月平均時給	21	米	パウエル米連邦準備理事会(FRB)議長、定例記者会見
6	米	8月ISM非製造業景況指数	27	米	8月新築住宅販売件数
7	欧	4-6月期四半期域内総生産(GDP、確定値)	29	米	4-6月期四半期実質国内総生産(GDP、確定値)
8	欧	欧州中央銀行(ECB)政策金利	30	欧	9月消費者物価指数(HICP、速報値)
8	欧	ラガルド欧州中央銀行(ECB)総裁、定例記者会見	30	米	8月個人消費支出(PCEデフレーター)
13	米	8月消費者物価指数(CPI)			

当レポートは、情報提供のみを目的としておりますのでお取引の判断については、御自身で行って頂くようお願い致します。